

学会報告

臨床美術学会 第9回大会

[基調講演]

臨床美術は「主体的・対話的で深い学び」をもたらすか

～乳幼児のための新しい教育及び保育パラダイムの創造に向けて～

[シンポジウム]

子どもの現場における臨床美術の新たな展開

分科会・ポスターセッション・懇親会

臨床美術トピックス

- 秋を五感でアートしよう！
- 中国精華大学ワークショップ開催と韓国での学会に参加

あなたのギモン、
解決します！

登録団体の活動紹介

みらいアート
(岐阜県可児市)

協会インフォメーション



プログラム名

「木粉粘土で作るジャンボピーマン」

臨床美術学会 第9回大会



〔大会テーマ〕

臨床美術の新たな展開

～フィールドとの接合と実践知の融合～

大会長 岩田 力氏

(東京家政大学子ども学部 学部長)

基調講演

臨床美術は「主体的・対話的で深い学び」をもたらすか ～乳幼児のための新しい教育及び保育パラダイムの創造に向けて～

「幼稚園教育要綱」が改訂されるなど、乳幼児期における教育の重要性が再認識されています。乳幼児教育の専門性とはどのようなものなのか、アートがどのような役割を果たすのかなど、那須先生による講演が行われました。



講演者：那須 信樹氏(東京家政大学 教授)

幼児教育というと「遊んでいるだけ」と思われがちですが、現場の保育士たちは、常に教育の質的向上を考えています。「教育」というとIQに代表される認知能力など、点数化しやすいもの(目に見えるもの)を指すことが多いのですが、乳幼児教育で重視されているのは、自己の理解、表現、コミュニケーション、目標を設定する力、他者と共働する能力、情動を制御する力などの非認知能力です。これらは外から見えにくく、点数化も困難な領域です。

では非認知能力を伸ばすにはどうしたらよいのかというと、喜び、悲しみなどの感情体験を数多くすることであり、その学びの機会はまさに遊びの中にあります。例えば3歳児がおもちゃの取り扱いになったとき、保育士はすぐに止めません。力加減などを学ばせるチャンスとして観察し、危ないようであれば止めに入ります。それが5歳の子どもなら、二人で話し合わせるかもしれません。遊びの中で起こる多様な経験を活かし、発達の段階に応じて子どもたちの非認知能力を高めるように指

導する専門職、それが保育士です。

保育現場における臨床美術のメリットは、鑑賞会のように表現する喜びを味わえること、プロセスを楽しむこと、保育士では考え付かないような画材・画法などを提案できることです。専門職としての保育士の視点と、臨床美術士の視点の違いが大切であり、お互いがもつものを共有しながら「違い」を乗り越えていく。これこそが幼児教育の質的向上に結び付けていくのだと思っています。

分科会 グループディスカッションを取り入れた分科会

今回新たな取り組みとして、参加者同士がテーマに沿って話し合い、各自の経験や知識、情報を共有、意見交換を行いました。

第1分科会では、「多様化するフィールドへ向けたプログラムの構造化」のテーマのもと、多様化する現場に対応するプログラム開発(藤木氏)や、プログラムの中に内在する構造や意味生成(北澤氏)の話題提供を受け、プログラムの活用法や現場対応力の重要性について共有がなされました。

第2分科会では、「様々な現場との協働を紡ぐためのコンピテンシー」について、コーディネーターとして自分が持つ資源を活用する方法(丸本氏)や、現場で長期的・持続的に信頼を獲得することの重要性(佐藤氏)について発表いただき、相手のフィールドを互いに受け入れることや課題を共有しあうことの大切さを再確認しました。



第3分科会では「現場に求められる臨床美術の効果と評価」と題し、メンタルヘルス現場の評価についての報告(高橋氏)や、様々な評価方法の提案や課題(音山氏)が挙げられました。更にエビデンス取得の目的や限界、また事例研究との両輪による立証の必要性など活発な意見が交わされました。



2017年11月12日、東京家政大学板橋キャンパスにて開催された臨床美術学会第9回大会には、約160名の参加がありました。基調講演やシンポジウムでは「子ども／保育」に焦点をあて、保育の現場における臨床美術の可能性について探る大会となりました。



シンポジウム

子どもの現場における臨床美術の新たな展開

さまざまなフィールドで臨床美術が浸透していくために何が必要なのか。シンポジウムでは「保育士としての臨床美術士」を採用している清香会での取り組みを軸に、問題点や今後の展望について発表されました。

寺澤「保育補助と美術専門職として独自の働き方を試みてわかったことは、保育士、臨床美術士にはそれぞれ固有の言語があり、専門的な言葉をお互いに共通言語にすることが大事ということでした。もう一つは、プログラムの問題です。子どもたちの成長に合わせて日々さまざまな課題に取り組み教育を積み重ねている中、単発で実施される臨床美術にどのような意義があるのか。非日常としての臨床美術ではなく、長期的視点でのプログラムの必要性を強く感じました」

河合「3年間、アートプログラムに関わって、

季節行事や誕生会などのイベントとどうリンクさせるのか、遊びから制作へどのように移行させるかなど、保育園ならではの造形表現活動があることを感じてきました。臨床美術のプログラムを保育園に定着させていくには、今まで保育士の人たちが実践してきた表現活動との関係性を保ちながら、いかに日常に落とし込むかが重要だと思っています。そのためにはプログラムが意図する重要点を的確に言語化して、共有することが不可欠です」

青木「フィールドでの課題としては、①日々の成長と生活、遊びとプログラムが結びつかない。②事前準備の重要性につい



座長：和田明人氏（東北福祉大学 教授）

シンポジスト：

河合規仁氏（東北文教大学 教授）

寺澤三奈子氏（社会福祉法人清香会 臨床美術士）

青木一則氏（東北福祉大学 准教授）

での理解不足。③事前事後の打合せがない、といったことがあると思います。これらを克服していくには、保育士と臨床美術士が連絡を密にとり、互いの文化を尊重する風土を作ることも必要でしょう。今、幼児教育で重視されていることの1つが「感じることを表現する」であり、これに対し臨床美術は具体策をもっています。生きる力を培う有効な手段として認知されれば、全国の保育現場に広がっていくのではないのでしょうか」

その後のディスカッションでは「園児の視点で考えるという部分では、保育士と臨床美術士は共通している」など清香会での取り組みで得られたことなどについて話し合われました。

ポスターセッション

19名の発表があり、質問が飛び交う、真剣に話に耳を傾ける姿があらこちらで見られ、大変活気のある時間となりました。



発表されたポスターのひとつ

懇親会

懇親会では、東京家政大学教授の笹井邦彦氏によるJAZZピアノ演奏があり、会場からアンコールが出るほど盛り上がりしました。



秋を五感でアートしよう！

ベニアカ編

10月28日。復興庁「心の復興」事業の一環として、東日本大震災で埼玉県近郊に避難されている方々を対象に行われたアート教室。2回目となる今回は埼玉特産のサツマイモ「ベニアカ」との出会いから始まりました！

8時45分、参加者を乗せた貸切バスはお芋畑に向けて出発。畑では、持ち主の松田さんからベニアカが100年以上前に埼玉で誕生した品種であること、別名を金時芋ということなどレクチャーを受けお芋掘り開始。30センチほどもある立派なお芋が次々と掘り出され「大き〜い」「すごーい！写真撮って！」歓喜の声が飛び交いました。



収穫したお芋と一緒にバスに乗りし松田 鑑賞会の様子
さんのお宅へ。立派な門前で記念撮影後、昼食。食卓には奥様に揚げていただいたベニアカの天ぷらも並び箸が進みます。時折雨が混じる生憎の空でしたが、大きなお芋を掘り出した感動とおいしい昼食のおかげで気力も充実。子どもたちから「早く絵を描こうよ」と催促の声も上がり、予定を早めてアートプログラム「ベニアカを描こう」が始まりました。掘り出

した中から自分が気に入ったお芋を選び、中身の色から塗っていきます。

終了後参加者の方からは、「家では画材を持つこともないので楽しかった！」「思うようには描けないのだけど、いつも面白い」「あんなに大きなお芋を今まで掘ったことなかった。それだけでも感動」といった感想をいただきました。

前回同様、今回のイベントも「臨床美術 彩球」「林檎の会」の協力体制です。「芋掘りの体験が表現にダイレクトに反映されたように思います。林檎の会さんとの連携も前回以上にスムーズになってきました」（臨床美術 彩球 守屋さん）。「ロケーションが素晴らしく皆さんわくわくしていて、その気持ちが作品に出たように感じました」（林檎の会 河本さん）。体験即アートの底力を感じた1日でした。

中国清華大学ワークショップ開催と韓国での学会に参加

中国清華大学バリアフリー発展研究院からの招聘で北京にある清華大学を訪問しました。大学の関係者が、医療、福祉、教育など幅広い分野で導入実績を持つ臨床美術に興味を持ったことがきっかけです。日本からは協会の山田修司副理事長、木村伸副理事長の発表の他、藤木晃宏理事によるワークショップを実施。中国からは大学関係者の他、施設や学校関係者などが研究成果や事例などの発表を行い、両国の交流が行われました。ワークショップでは、「色のアラベスク」を実施。中国では抽象表現よりも具象表現を好む傾向があるように思われましたが、臨床美術独自のプロセスに沿うことで、皆



ワークショップの様子

さん戸惑うことなく好奇心を持って集中して取り組んでいたただけました。言語や国の違いを感じさせない楽しい時間になりました。

10月28日に臨床美術の国際学会BESETOが韓国・ソウルで開催され、日本からは木戸会長、大和、藤木、蜂谷の各理事が参加しました。

韓国、中国、日本の講演と制作体験の発表が行われ、講演は蜂谷理事が「臨床美術と抽象表現」について、制作体験は藤木理事が「シタールのアナログ画」を実施し、各国との親睦を深めてきました。



会場の様子

あなたのギモン、解決します！

今号からスタートする新しいコーナーです。臨床美術士の皆様の日頃活動するなかで生まれる疑問やお悩みにお答えしていきます。今回は、協会によく寄せられる質問を取り上げました。

1. 更新について

Q セミナーに参加することができず、また活動もしていないため、単位をためることができないのですが、どうしたらよいですか？

A 資格更新日までに単位が不足していて申請ができない場合は、猶予が認められますので、「資格更新猶予」の申請を必ずしてください。なお、ご家族、友人へのセッションも単位になります。また、休会制度もございますので、詳細は協会事務局までお問い合わせください。臨床美術士ハンドブックP71もご参照ください。

2. アートプログラムについて

Q アートプログラムはどこで購入できますか？

A アートプログラムの購入やご質問については、芸術造形研究所が窓口になってますので、芸術造形研究所にメールやお電話でご確認ください。協会では購入できません。

■ 芸術造形研究所 TEL：03-5282-0210 / Mail：school@zoukei.co.jp

3. 臨床美術士の情報交換について

Q 臨床美術士と交流したいのですが情報は頂けますか？

A お近くの登録団体の活動への参加や研修会・交流会への参加で、近隣の臨床美術士との情報交換が可能です。また、協会事務局からのメールマガジンを通じてご自身で交流会を呼びかけることも可能ですので、協会事務局までお問い合わせください。

登録団体の活動紹介

「楽しい←→楽しみ」の環境の鍵

みらいアートは、岐阜県加茂郡坂祝町社会福祉協議会の地域福祉活動から始まり、その活動暦は長く15年になります。私は社協を退職し、近隣市でNPO法人DOREMIみらいを立ち上げ、その一角で「みらいアート」の活動をしています。いつでも仲間と会える場所があったら、と日々思いながら笑顔になれるコミュニケーションをしています。

主な活動例は、通所介護事業所や認知症高齢者グループホームでの活動、東山地区アート塾など多数実施しています。ほか、年数回程度、特別支援学級の知的・自閉症クラス・情緒障害のあるクラスの小学生へのアート支援や障害者就労支援施設でのアート塾などを実施しています。また、東山アート祭りや作品展といった、アートを通じた地域コミュニティの形成にも力をいれています。

また、特別支援学校に在学中、あるいは卒業した発達障害のある若者たちにむけた「アート塾」を開催、発達障害のある若者がアート(=画を描くこと)を本人が楽しみ、それを他者(=認知症のある高齢者など)に伝える力を獲得していくことを目指しています。発達障害のある若者が認知症のある高齢者から「先生」と呼ばれ、丁寧に「アートを指導する」場面は、寄り添う私たちに勇気を与えてくれる光景です。

来年の目標は、春夏秋冬アート研修会の開催～身近にアートプログラムが感じら



東山地区アート塾の様子

みらいアート(岐阜県可児市) 相馬清美さん

れ誰もが楽しめる環境づくり～や、みらいアート教室のオープン、臨床美術で居場所づくり、スクールソーシャルワーカーとの連携を予定しています。

私たち臨床美術士は、自らが「楽しみ」つどいに参加するすべての人々の「楽しい」を描き出していく。「楽しみ」と「楽しい」がぐるぐると回る、そんな「環境」でなければ「良いもの」が提供できないと、ふと思っています。環境が導いてくれる「楽しい」をヒントにし、「環境の鍵」をこれから作り出そうと思います。



ハッピーアート祭りの様子

▶ 2018年度 年会費についてのご案内

2018年度の年会費について、以下をご確認の上、お支払いをお願い致します。

年会費 10,800円 (消費税込み)

納入方法について

●「口座自動引落し」の手続きがお済の方

2018年2月27日(火)に指定口座より引落し致しますので、事前にご指定口座の残高のご確認をお願い致します。

●「口座自動引落し」を中止される方

2018年1月31日(水)までに協会事務局に、メールもしくはFAXにてご連絡をお願い致します。

ご連絡先 日本臨床美術協会 事務局(受付時間 平日・9:30～18:30)
FAX: 050-3737-9007 / MAIL: association@arttherapy.gr.jp

●「口座自動引落し」以外の方

2018年2月27日(火)までに「コンビニエンスストア専用支払伝票」にて、お支払いください。

※伝票用紙は、同封しております。

会員証 2018年度の新会員証は2018年4月上旬頃にお送り致します。

▶ 東京での臨床美術士交流会(情報交換会)開催決定!!

さまざまな形で活動している臨床美術士の話を聞いたり、お互いに情報交換をすることで、新たな活動のヒントを得られるかもしれません。

- 既に幅広く活動している方
- 一緒に活動してくれる人を探している方
- これから活動を始めたいと思っている方
- 近隣の臨床美術士と知り合うチャンスがないという方

一同に集まって情報交換会をいたしましょう。

臨床美術士同士のネットワーク作り、コミュニケーションの場としてご活用ください。

日 時: 2018年 1月28日(日)
13:00～16:00

会 場: お茶の水OCCビル A教室

参加費: 無料

内 容: 事例発表、自己紹介、情報交換
※持ち物は特にございません。

申込締切日: 2018年 1月22日(月)

定 員: 50名 ※定員になり次第締め切らせていただきます。

申込方法: メール、FAXまたは電話にて協会事務局までお申し込みください。

※会員番号、氏名、連絡先電話番号をご連絡ください。

協会主催の各種講座・講演会

●「ナラティブ講座Ⅱ」in 東京

昨年度、東京で開催され大好評だった、富山福祉短期大学教授、北澤先生の「ナラティブ講座」第2弾です。初めての方でも受講可能です。ぜひこの機会に受講をご検討ください。

北澤先生より本講座へのメッセージです

昨年の「ナラティブ講座Ⅰ」では、ナラティブ(語り)は言葉の連なりであり、それが私たちの意味世界をつくることになるとお話ししました。そこには、<今-ここ>を生き、未来につなげていく力があり、また逆に、ある限定した未来に向かわせ、自己の生を統制する力にもなるとお話ししました。いずれにせよ、ナラティブ(語り)には、自己の<生>を生み出す根源的な力があります。

この講座では、ナラティブ・アプローチの視点で、どのように臨床美術の<場>の意味生成に関わり、より豊かな出来ごとの創出につながるのかについて考えます。そもそも私たちがひ

らいていく現実、言葉でつくられた「意識」の世界です。その意識の持ち方次第で、現実が大きく変わっていきます。非言語的な言葉(表現)がさまざまな意味をまとってつながり、新たな意味世界をひらくことへの支援を、私は意味生成ケアとして臨床美術の実践の根底に置いています。

ナラティブ・アプローチの視点に新たな自己の可能性を感じることができれば、あなたが臨床美術士として見ている世界は、大きく変わっていくことでしょう。

「ナラティブ講座Ⅰ」を受講されていない方でも、ぜひご参加ください。

講師: 北澤 晃

富山福祉短期大学教授(前学長)
日本臨床美術協会常任理事
臨床美術学会常任理事

日時: 2018年2月4日(日)
13:30～15:10

場所: お茶の水ユニオンビル 4F
エムワイ貸会議室お茶の水 RoomD
(東京都千代田区神田駿河台2-1-20)
JR中央線・総武線「御茶ノ水」駅
御茶ノ水橋口 徒歩2分

参加費: 4,320円(税込)

申込締切日: 2018年1月29日(月)

● 特別講演【臨床美術で子どもが変わった】in 京都

今から12年前、公立小学校に臨床美術が導入された時の校長先生であった、元山先生が今回講師としてお話しをしてくださいます。その経過と成果を明らかにしながら、今後臨床美術士が学校現場等で活躍するための留意点や、現場の先生方とうまくやっていくためのノウハウ等を小学生の発達心理などを交えながら、実践的に学ぶことができます。

日 時：2018年3月25日(日) 13:00～14:30

会 場：YIC 京都工科大学校 2号館-8階-282

対 象：一般、臨床美術士(更新制度単位取得対象講演：3単位)

講 師：元山清博(協会教育アドバイザー、元 幸松小学校 校長)

受講料：5,400円(税込)

※同日開催の特別研修【子どもの絵の見方 褒め方】と同時申込の場合は、2講座で9,180円(税込)

定 員：50名(参加には事前申し込みが必要です)

主 催：特定非営利活動法人 日本臨床美術協会

申込締切：3月19日(月)

● 特別研修【子どもの絵の見方 褒め方】in 京都

日 時：2018年3月25日(日) 15:00～16:30

会 場：YIC 京都工科大学校 2号館-8階-282

対 象：一般、臨床美術士(更新制度単位取得対象講演：3単位)

講 師：蜂谷和郎(協会常任理事)

受講料：5,400円(税込)

※同日開催の特別講演【臨床美術で子どもが変わった】と同時申込の場合は、2講座で9,180円(税込)

定 員：50名(参加には事前申し込みが必要です)

主 催：特定非営利活動法人 日本臨床美術協会

申込締切日：3月19日(月)

●【上記講座のお申込み・お問い合わせ先】●

特定非営利活動法人 日本臨床美術協会 事務局

Eメール association@arttherapy.gr.jp FAX 050-3737-9007

※希望講座名、受講者氏名、電話番号を必ずご連絡ください。

※メールの場合、受付後に受付完了メールをお送りしております。受付完了メールが届かない場合は、メール送信エラーになっている可能性がありますので、お手数ですが再度お申し込みください。

■各講座内容、受講料のお振込み等詳細は、別紙同封のチラシをご確認ください。

特別講演のご案内

日本に初めて
「もの忘れ外来」を設立した医師、
宇野正威氏による、
臨床美術が認知症、特に
アルツハイマー病の治療に
いかに関わるかについて
考察します。

講師：宇野正威

日本臨床美術協会顧問
メモリークリニックお茶の水顧問医師



“描く、造る”ことが心を表現する

～美術による認知症治療のメカニズムを考える～

日 程：2018年2月18日(日)

時 間：13:30～15:00

会 場：東京藝術大学美術学部 中央棟 第1講義室

主 催：臨床美術学会、日本臨床美術協会、芸術造形研究所

参加費：臨床美術学会員および日本臨床美術協会会員は無料
一般 1,080円(税込)

参加費振込口座：ゆうちょ銀行

店名 018 (ゼロイチハチ) 普通

口座番号 3840521

口座名義 リンショウビジュツガッカイ

定 員：150名(定員になり次第締め切り)

【本講演会のお申し込み・お問合せ先】

臨床美術学会事務局 TEL 03-5981-6011 FAX 03-5981-6012 E-mail clinicalart@asas-mail.jp

指定校からのお知らせ

ひろしま美術研究所

【広島美術研究所展】

会期：3月13日（火）～18日（日）

会場：広島県立美術館 県民ギャラリー

東北福祉大学 予防福祉健康増進推進室

【臨床美術士養成講座5級取得コース2018年2月期】

受講日：2/18・2/25・3/4・3/18・3/25（すべて日曜日、計5日間）

申込締切日：2/2（金）

1月～3月の研修会スケジュール（東京校研修会は除く）

申込窓口／日本臨床美術協会 TEL：050-3735-2028

1月20日（土）開催地：静岡	10：00～12：00	CAC 研修会 No.4-6 ＊受講対象級5級以上
	13：30～15：30	色鉛筆アートプログラム研修会 No.9-16 ＊受講対象級5級以上
2月17日（土）開催地：岐阜	10：00～12：00	CAD 研修会 《春》 ＊受講対象級5級以上
	13：30～15：30	色鉛筆アートプログラム研修会 No.25-32 ＊受講対象級5級以上

申込窓口／ひろしま美術研究所 TEL：082-506-3060

3月11日（日）開催地：広島	10：00～12：00	最新アートプログラム研修会 ② 「エリンギのネガポジ画」 ＊受講対象級4級以上
	13：30～15：30	オイルパステルプログラム研修会 No.7-12 《フェリシモシリーズ》 ＊受講対象級5級以上

申込窓口／東北福祉大学 臨床美術士養成講座事務局 TEL：022-208-7790

1月28日（日）開催地：仙台	10：00～12：00	CAD 研修会 <春>（ディサービスなどの現場向け アートプログラム研修会） ＊受講対象級5級以上
	13：30～15：30	立体アートプログラム研修会 ⑤ 「りんごのオブジェ」 ＊受講対象級4級以上
3月25日（日）開催地：仙台	10：00～12：00	色鉛筆アートプログラム研修会 No.17-24 ＊受講対象級5級以上
	13：30～15：30	音のアナログ画シリーズ研修会 ③ 「雅楽を描く」 ＊受講対象級4級以上

活動状況アンケートへのご協力をお願い

日本臨床美術協会では、臨床美術士の皆様へアンケートを実施することになりました。
臨床美術士の皆様が、日頃どのような活動をされているのかを把握し、臨床美術の普及のための参考資料とさせていただきます。
承諾を頂いた方には、活動現場をホームページで紹介をしていきたいと考えております。
詳細はHPとメールマガジンでお知らせしておりますので、ご確認とご協力をよろしくお願い申し上げます。
※ご回答頂いた内容は協会内で厳重に管理し、目的以外には使用いたしません。



特定非営利活動法人
日本臨床美術協会

表紙掲載 アートプログラム紹介

プログラム名「木粉粘土で作るジャンボピーマン」

ピーマンの独特な形の面白さを発見し、粘土の重さや抵抗感を感じながら造形する楽しみを味わう立体のアートプログラム。

立体でありながら、和紙による混色効果で絵画的な印象を表現できるところもポイントです。

[事務局]

〒251-0047 神奈川県藤沢市辻堂1-9-3 ShonanEminence 3階

TEL. 050-3735-2028 FAX. 050-3737-9007

E-mail : association@arttherapy.gr.jp <http://www.arttherapy.gr.jp>

臨床美術 JCAA ニュース 第52号 2017年12月25日発行

発行／特定非営利活動法人 日本臨床美術協会

本誌掲載の記事・写真・イラストの無断転載および複写を禁じます。